スカンジナビアから極東へ

「手風琴の日本楽旅」

今日のアコーディオン界では、本当にアクティブだという若い奏者は少ない。そんな中にノルウェーのフローデ・ハルトリがいる。彼のリサイタルは確かに心地よく、妥協のないバランスのとれたプログラムは、聴衆に彼の国や日本の文化を強く印象づけた。

オープニングはソーレンセン(デンマーク)作曲「ルッキング・オン・ダークネス」。ハルトリは強烈なフレーズと明確な音楽を作り出す才能と同時に、微妙な色彩と陰影を示した。それはインゴルフソン(アイスランド)作曲「レディオフレイクス」へと続く優れた前奏である。いとも簡単に高度なテクニックをあやつり、作品の裏側にあるものをつかみ出し、聴衆を刺激した。

前半の最後は加藤訓子（マリンバ、パーカッション）との共演。ハルトリ自身の小品に続き、若き日本の作曲家・鶴見幸代の「アコーディオンとマリンバのためのガングロ」を演奏。この複雑な組み合わせは、鶴見氏によって更に発展し、ユニゾンやそれぞれのメロディで通奏低音を演奏できるよう改善されるだろう。

リサイタルプログラムより

ノルウェーの新進アコーディオニスト
フローデ・ハルトリ　Frode Haltli

後半はふたつの重要な作品、細川俊夫・作曲「メロディア」とリンドベルイ(フィンランド)作曲「メタル・ワーク」。「メロディア」に対するハルトリの解釈は新鮮で、一般的に言われる日本の笙に対するものとは違ってアコーディオンの作品の感じだ。そして「メタル・ワーク」のすばらしい演奏で幕を閉じる。彼の広いカラーパレットは金属的なパーカッションの響きを愛でながら…。

ハルトリが最も優れた才能の持ち主であり、人々に強烈な印象を与えられるアコーディオニストであることは疑いない。野心的なプログラミング、独創的な解釈、そして演奏は新鮮な空気の息づかいを感じさせる。再び日本で、彼を見る日の遠くないことを希望したい。

〈2005年4月20日　神奈川県民小ホール〉
デイヴィッド・ファーマー／アコーディオニスト

▲デイヴィッド・ファーマー氏と共に。

音楽を通しての国際交流

フローデ・ハルトリさんは4月12日(火)、横浜市にある「ひの養護学校」と「日限山小学校」を訪問し、アコーディオンワークショップ・ミニコンサートを行った。その様子は、NHK首都圏ネットワーク(4/13)や横浜南部ケーブルテレビのひまわりネットワーク(4/15～22)で放送された。

海★外からこんにちは！

ノルウェーを代表する若手アコーディオン奏者フローデ・ハルトリさんが来日し、リサイタルを開いた。最近、活躍が目覚ましいハルトリさんは1975年生まれ。

武蔵野市民文化会館でのアコーディオン・リサイタル(4/17)終了後、インタビューを行った。

Q　今回は単独来日ですね。
アジアにはとても興味があり、日本の文化や人々にも関心があります。日本人は皆さん礼儀正しくて好きです。日本食はどの国の食事よりもおいしい。もちろん、日本の女性はチャーミング！（笑）。世界中の様々な場所に行くのは重要と考えて、次は中国に行きます。

Q　ノルウェーのアコーディオニスト、オイビント・ファルメン氏もフリーベースで左手の親指（スタンダードのベースシステムで使うことは殆どない）をよく使っていますが…。
特に学校で教わった奏法ということではなく、演奏経験の中で修得していったものです。オイビント氏の楽器には親指で弾きやすいように段差がつけてあるが、僕の楽器PIGINI(ピジーニ・イタリア製)には特別な仕掛けはなく、普通のシステム。それでも全然問題ありません。

Q　北欧ではアコーディオンがとても盛んですね。
背景には伝統的な音楽や民謡の存在があると思う。アコーディオン自体は1950年頃から急速に発展したモダンな楽器で、スウェーデンのアコーディオニストCalle Jularbo(カレ・ユラルボ)氏によって広く親しまれるようになった。アメリカのエルビス・プレスリーほどの人気者だった。ノルウェーでは音楽専門学校にアコーディオン科があり、子どもの頃から学べるシステムになっています。

Q　自国の作品を大事にしているように感じます。
もちろんノルウェー民謡や作曲家グリークの作品は大切ですが、古臭くならないで新しい感性を取り入れて演奏したい。自分のバックグランドはクラシックですが、現代音楽とノルウェー民謡音楽、この２本を柱にしていきたい。

Q　日本人作曲家の作品を演奏しますね。
高橋悠治、細川俊夫両氏の作品は、ヨーロッパでも御喜美江、シュテファン・フッソング氏らが演奏して広めていますが、とても日本的な響きが特徴的です。いま世界中で、日本的な作品の面白さが注目されていると感じます。

Q「アコーディオン・サマーフェスタ2005」へメッセージを。
Dear young accordion players in Japan, Have fun with the music you make!
日本の若いアコーディオンプレイヤーの皆さん、コンクールでの演奏を、ぜひ楽しんで下さい！

（聞き手：川口裕志　／　通訳：矢部瑞保）

プロフィール

7歳でアコーディオンを習い始める。ノルウェー国立アカデミーとデンマーク王立音楽院でアコーディオンを学ぶ。94年、96年国際アコーディオンコンクールでグランプリ、99年オランダのガウデアムス国際コンクールで第2位。ベルゲン国際フェスティバル2000では、ノルウェーコンサート協会により「Young Soloist of the Year 2001」に選ばれる。02年ECMよりリリースしたデビューCD「Looking on Darkness」は、03年ノルウェーのグラミー賞とも言うべき“シュペルマン賞”(最優秀現代音楽アルバム)を受賞、国際的な音楽雑誌で賞賛された。欧州、北米各地で演奏活動、多くのアンサンブルやオーケストラと共演し、室内楽奏者としても活躍。コントラバス・サックス・アコーディオンによる現代音楽アンサンブル“POING”(ポイング)のメンバーとして、03年5月に初来日公演、好評を得る。また、フォークシンガー、フィドラーのメンバーと“RUSK”(ルスク)を結成、ノルウェー民族音楽を演奏している。ノルウェー・オスロ在住。

http://haltli.com/
http://www.poing.no/

▲“POING”のメンバーと。

CD紹介

『Looking on Darkness』
Looking on Darkness／
Bombastic Sonosofisms／
Gagaku variations／
Jeux d'anches／Lament

●Recorded August 2001
●ECM New Series 1794

http://www.ecmrecords.com/